

第22回千葉元気印企業大賞

受賞企業決まる

第22回「千葉元気印企業大賞」の受賞企業が決まった。大賞・千葉県知事賞には副賞として50万円、各部門賞には15万円、特別賞（地方創生賞）には10万円、各奨励賞には5万円が贈られる。このほか、奨励賞を含む全企業に特別協賛の千葉ロッテマリーンズから観戦チケットも贈呈される。各受賞企業は次のとおり。（カッコ内は代表者名、所在地、電話番号）

審査委員講評

小野文弘・千葉県商工労働部産業振興課副課長

今回は例年に増して応募数が多く（平成27年度51社、今年度58社）、しかも魅力的な企業が多い中で、審査はひじょうに難しいものでした。各社の皆様の取組を拝見させていただき、独自の技術やアイデアを活かして地域貢献にも取り組む企業や、ユニークな経営をされている企業など県内には素晴らしい企業が数多くあることを改めて実感し、頼もしく感じました。今後も地域をそして千葉県を元気づける元気な企業が数多く現れることを期待しています。

庄司英実・千葉県産業振興センター理事長

今年も多くのお応募があり、千葉で元気に活動している多くの企業の姿を拝見し、うれしく思いました。

優秀技術賞を始め、どの部門も素晴らしい内容であり、また、先のリオオリンピック・パラリンピックで話題となった製品もあるなど、大変難しい審査となりました。

国際的な政治・経済情勢が大きく変化しており、長期的な展望に立った取り組みが難しい状況になっている中で、応募企業の方々の新製品や新サービスへの積極的な取り組みは、千葉県の財産であります。今回応募された各企業の今後の活躍を大いに期待いたします。

北村聡・千葉県商工会議所連合会事務局次長

中小企業を取り巻く環境は依然厳しい状況にあるものの、多くの元気企業に応募いただき、いずれも素晴らしい内容でした。受賞された企業は確固たる経営理念に基づき、付加価値の高い製品・サービスの提供にチャレンジし続けること、そして従業員のスキルアップ・やる気アップを通じた働きがいの向上を「元気」の源として、全社一丸で取り組んでおられます。このような元気企業が千葉県にもっともっと増えることを願ってやみません。

花澤和一・千葉県経営者協会専務理事

IR推進整備法案が可決された。様々な意見はあるものの、経済活性化策の一つとして期待が高まっていることだけは事実だ。急速に進行する少子高齢化の中、地域が活力を維持していくためには市場拡大の仕組みづくりと、地域の雇用を支える中小企業の支援が欠かせない。特に、事業者数の9割を超える中小企業は時代を牽引するイノベーションの源泉であり、わが国経済の持続的発展のカギを握っているといつてよい。

今年も「第22回千葉元気印大賞」へ多くの中小企業から応募があった。世界トッププレーヤーが認めた用具メーカー、常識を覆した靴紐メーカー、「働き方改革」を一步リードして推進する建設会社等、いずれも甲乙つけがたく、各賞の選考には大変苦労した。「千葉県元気印大賞」事業が本県経済発展の一助となることを願っている。

松永光男・千葉県中小企業団体中央会事務局次長

応募企業は、総じて技術力、開発力が高く受賞の有無は紙一重の差であった。惜しくも受賞に至らなかった企業は再挑戦し、飛躍の契機としていただきたい。

北村孝司・千葉大学学術研究推進機構産業連携研究推進ステーション

ユニークな経営理念や技術の高度化を実現し、社会的価値を高め顧客の信頼を勝ち取っている企業が受賞した。地域に密着したコミュニティ、社会や自然と調和したデザインが多くの人々に受け入れられる時代となった。

渡辺昇・千葉県経営品質協議会常任幹事

本年度の審査を通じて、地元千葉県には、国内はもちろん、グローバル市場ですでに基盤を築いて活躍されている企業、今後十二分に活躍が期待できる潜在力豊かな企業がかくも多く存在することに改めて千葉県企業の生命力を感じた。グローバル市場を視野に入れた自社の独自能力とはなにか千葉元気印大賞への申請プロセスと評価が、その認識力を高める一助としてお役に立てれば幸いである。

【千葉県元気印企業大賞・千葉県知事賞】

◇鎌ヶ谷巧業

（今井靖彦、千葉県鎌ヶ谷市東初富6-7-20、☎047・443・6181）

〈受賞理由〉

同社は1966年に鉄骨工事の専門事業者として創業。原材料の受注から製造・加工・設置まで一貫体制を構築し、納期短縮、期日管理を容易にしている。また、技術承継の重要性も鑑み職人も自社育成を行っている。さらに千葉県活性化への取り組みとして千葉県に本拠地を置くスポーツ団体などに対して積極的な支援を行っている。



【優秀製品・サービス賞】

◇三英

（三浦慎、千葉県流山市東初石6-182-1（新C69街区7）、☎04・7153・1511）

〈受賞理由〉

それまで使われていた卓球台の天板は湿度や湿気により木が反ったり、隙間が空いたりすることがあった。同社が開発した卓球台は反りや狂いが少ない日本初の合板による天板で製造。リオオリンピックでの提供に続き、2020年の東京オリンピックでの採用が決まっている。



【創業・ベンチャー賞】

◇新閃力

（尾崎えり子、千葉県流山市長崎2-159-9、☎090・7844・9254）

〈受賞理由〉 地域に密着したコミュニティの中で、新規事業の開業コンサルティングや大手企業も利用するサテライトオフィス事業を展開。子育てや介護中の人々が都内に通勤しなくてもキャリアを生かして働ける場所を提供することによりやりがいのある仕事をする環境を創出している。



【優秀技術賞】

◇ツイズ

（梶原隆司、千葉県船橋市金杉7-1-9、☎047・449・8380）

〈受賞理由〉

結ぶのが当たり前の靴紐に着目し、結ばない靴紐を開発。ほどける心配がなくなることはもちろん、紐を踏んで転倒する危険を排除するなどアスリートから一般のお年寄り、子供まで幅広く活用できる。



【地球環境貢献賞】

◇システムエンジニアサービス

（能智博史、千葉県市川市塩浜4-2-43-601、☎047・395・0391）

〈受賞理由〉 排ガス回収装置の設計・製作・施工を行っている。特許を取得した特殊シリカゲルを使用した同社の排ガス回収装置は不燃性という特徴を生かしてガソリン用・化学薬品用として製油所や化学工場など国内外のプラント設備に採用されている。



【優秀経営賞】

◇拓匠開発

（工藤英之、千葉県千葉市中央区弁天2-20-20、☎043・309・2011）

〈受賞理由〉

住宅地の中に残された屋敷林跡を、近隣住民が利用できるコミュニティスペースとし、さまざまなデザインの可動式タイニーハウスやツリーハウスを製作。地元で商業を営む人々との協業によって地域活性化に取り組んでいる。



【特別賞(地方創生賞)】

◇ティーエスケ

（竹内一、千葉県船橋市高瀬町31-3、☎047・434・1751）

〈受賞理由〉 マンション・集合住宅、ビル建物等の大規模修繕工事の専門企業として事業を行っている。地域貢献の重要な柱は、雇用の創出との考え方のもと、千葉県内の若者・第二新卒、高齢者の積極的な採用と活用を行っている。加えて、Iターン・Uターンの受け入れにも取り組んでいる。



【奨励賞】

優秀製品・サービス賞部門

◇芳源マッシュルーム

（菅佐原芳夫、千葉県香取市貝塚1621、☎0478・70・7515）

〈受賞理由〉

マッシュルームの製造過程において、無農薬、オランダ式培地生産設備、24時間コンピューター管理栽培システムの導入などにより、364日出荷できる体制を確立。常時新鮮な商品供給を可能にしている。また、栽培が終了した培地は肥料や土壌改良のために再利用し近隣農家へ提供し、持続的な農業を実践している。



優秀技術賞部門

◇亀田酒造

（亀田雄司、千葉県鴨川市仲329、☎04・7097・1116）

〈受賞理由〉

同社は、全国に先駆け25年前から杜氏に頼らない酒造りを行っている。杜氏制度では11月から3月の寒仕込みに限定されるが、冷蔵庫を2棟建設し、千葉県では唯一、年間を通して日本酒を醸造することができる「四季醸造」が可能な蔵元となっている。



優秀経営賞部門

◇アース

（佐塚みさ子、千葉県松戸市六高台3-77、☎047・393・8934）

〈受賞理由〉

松戸市を拠点に訪問看護・介護、高齢者住宅、デイサービスなどを運営している。差別なく受け入れるというポリシーの下、重度の要



介護者、難病患者、末期がん患者といった細やかな医療処置を必要とする利用者を多く受け入れ、高齢者や障がい者を見放すことのない社会の実現を目指している。測定する装置「レオメーター」を製造、販売する会社を設立。産総研技術移転ベンチャーにも認定される。扱いやすく高価な装置に負けない性能を持つレオメーターの普及を目指す。

創業・ベンチャー賞部門

◇wash-plus

（高梨健太郎、千葉県浦安市猫実1-9-5、☎047・352・8988）

〈受賞理由〉 既存のコインランドリーで使われている洗剤にアレルギーの不安があるという意見が数多くあった。同社では、スーパーアルカリイオン水を使用し汚れを落とすとともに殺菌までが可能となることに着目。洗剤に含まれる活性剤でのアレルギーの危険性を排除した。一方でIoTを活用して、顧客のスマートフォンアプリと連動した画期的な決済システムを導入している。



地球環境貢献賞部門

◇エジソンパワー

（山田敏雅、千葉県木更津市かずさ鎌足1-8-1、☎0438・52・0600）

〈受賞理由〉 再生可能エネルギーの固定価格買取制度が始まったことに着目し、メガソーラー事業の拡大に努めている。千葉県内の小中学校の屋上にソーラーパネルを設置し、停電時には売電していた電力を小中学校に供給する仕組みを作るなどの活動も行っている。

